



桃小だより

令和7年9月1日 第7号

大分市立桃園小学校

文責：校長 平山達也

2学期のスタートです + 言葉づかい

長い夏休みを終え、少したくましくなった子どもたちの顔を見ながら、2学期のスタートを無事に切れることをうれしく思います。

始業式では、アメリカの絵本「しあわせのバケツ」を紹介しながら、みんなに以下の点について話しました。

1学期にがんばった「あいさつ・認め合い・ありがとう」のレベルアップ

自分の言葉遣いを見直し、**ふわふわ言葉**を使うようにしよう

(式辞より)

私たちはひとりで生きていくことはできません。友達や先生、家族…誰かとかかわり、誰かとつながり生きています。その人たちとかかわるとき、つながる時、ことばが必要となります。

普段友達と交わしている、自分のことばが「ふわふわ言葉」なのか、それとも「ちくちく言葉」なのかということを意識して過ごしてみませんか。

ふわふわ言葉とは、「ありがとう。」「おはよう。」などのように相手の心をぽかぽかと温める言葉です。「それ、いいね。」「上手だね。」「すごいね。」といった言葉もふわふわ言葉に含まれます。

一方、ちくちく言葉とは、ふわふわ言葉とは反対で相手にいやな思いをさせる言葉です。人に対する悪口はもちろんのこと、「うるさい、静かにしろ。」「早く 並べ。」といった命令口調もそれに当てはまります。

言葉は、ふわふわ言葉のように人の心を温める力を持っています。ところが、逆に人の心を冷やしてしまう力も持っています。それがちくちく言葉です。いじめや差別には、ちくちく言葉があふれています。相手のしあわせのバケツの中に手をつっ込んで空っぽにするちくちく言葉では、絶対に自分のバケツは いっぱいにはなりません。

2学期、運動会などの行事や、毎日のさまざまな場面で、周りのお友達と関わって生活していきます。その時、がんばってほしいことが

自分の言葉遣いを見直し、ふわふわ言葉を使うようにしてほしいのです。

1学期にがんばった「あいさつ・認め合い・ありがとう」のレベルアップを期待しています。

あいさつにあふれ、認め合いのふわふわ言葉で温かい雰囲気を作り、ありがとうと感謝し合える学校になると、みんなが幸せだろうと思うのです。

みんなの『幸せのバケツ』がいっぱいになる、桃園小にしたいと夢見ています。

「しあわせのバケツ」という絵本は、アメリカで「お母さんが選ぶ絵本大賞」金賞を受賞した名作です。「思いやり」や「コミュニケーション」について、わかりやすく説明した絵本です。

子どもたちには、自分の言葉をコントロールする力を身に付けてほしいと考えています。そのことで、自らの周囲に、学校全体に、前向きな、温かい雰囲気を作りだし、それぞれの「自己有用感」（他者、社会から必要とされてる感）をアップさせ、学校（地域、将来の社会）で意欲的に学び、活動する資質を育てたいと考えています。



